

地名の歴史と由来／今川編

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

今川氏との馴れ初め

「今川」という町名は、昭和7年(1932)に、一部の町名を変更して新しくできました。この町名の由来は、駿河・三河・遠江の戦国大名として有名な今川義元の子孫に起因しています。現在の今川2丁目にある「観泉寺」には、今川氏累代の墓があり、「今川」周辺はかつて今川氏の領地でした。

今川義元の3代後の今川直房は、正保2年(1645)に家康が祀られた日光の「東照社」へ宮号の宣下(註1)を実現させたほうびとして井草村(高300石あまり)の他2か村を知行地(註2)として与えられました。これを機に、直房は下井草にあった「観音寺」を今川氏の菩提寺として、寺領10石を寄せて再興します。また、直房の姉(註3)を現在地の今川2丁目へ移し、寺名も「観泉寺」と改称しました。後に、万昌院(中野区)にあった今川氏真(義元の子)の墓は改葬され、氏真は観泉寺の「勧請開基」となりました。

今川氏のなごり

昭和初期頃まで、今川周辺には今川氏に因む通称の地名が残っていました。例えば桃井2丁目11・12辺りにあった「御茶園」は今川氏の御用茶園で、井草4丁目(現在「井草森公園」)にあった「お菜園跡」は今川氏の御用野菜を栽培した

所だったといえます。今ではその痕跡は消え、日常風景から今川氏のなごりは薄れつつありますが、町名の中にその所縁が残されています。そして観泉寺には今川氏累代の墓が並び、今川氏の由緒を今も厳かに伝え続けています。



区立井草森公園

この場所は昭和14年(1939)から55年(1980)まで「機械技術研究所」があり、平成8年に当公園が開園した。

(註1) 天皇から宮号を賜ること。家康を祭神とした「日光東照宮」は、第110代後光明天皇から「東照社」に宮号が宣下されたことで「東照宮」と呼ばれるようになった。

(註2) 大名が家臣に与えた領地のこと。

(註3) 開基とは財政面を負担する信者のこと。勧請開基とは、本来その寺の開基ではないが、先祖や師を敬って開基とすること。



宝珠山観泉寺(今川2丁目)

境内にある今川氏累代の墓は、東京都指定の旧跡となっています。



現在の「今川」

※当センターの対象地域を示しています。